



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

第23号

発行:2008年3月15日
発行責任者:
特定医療法人社団 鵬友会
事務局長 池島 守



7年目を迎えた音楽クラブと音楽療法

認定音楽療法士 村山 進

ほうゆう病院開院の半年後、平成13年10月より老年精神医療に貢献するという病院の理念に基づいて、音楽クラブとしての音楽療法を行ってまいりました。

各病棟、毎月2回・1セッション50分という少ない回数ではありますが、各病棟の作業療法士を中心に各種の医療スタッフの皆様のご協力とご参加をいただき実施してまいりました。

高齢者に対する音楽療法の目標としてはQOL（クオリティー・オブ・ライフ、生活の質の向上）心身機能の残存機能の維持と改善などが挙げられています。さらにほうゆう病院では、前述の目標にプラス、コミュニケーション能力の向上・問題となる行動の変容を目指すという大きな目標を設定しました。音楽に親しみ、身体を動かす。呼吸のトレーニング。季節を感じる（見当識）。楽器への取り組み（社会性の強化・集中力の回復）とし実施してまいりました。高齢者は大きな変容には、不安を感じるといわれており、大きな流れには固定性を持たせ、安心して参加できるセッションを目指しております。プログラム内容は、出欠の確認（個々への声掛け）、体操、誕生月の方のお祝い、手遊び歌、季節感を意識した歌唱活動、鑑賞、小楽器等を使った合奏などを行ってまいりました。この6年間の中で参加マニュアルを作成し、医療スタッフに周知していただき、効果的な参加をしていただけるよう努めてまいりました。スタッフからも「普段行動されない方が、声を出したり行動された」「徘徊のある方がセッション

中は落ち着いて座っていられた」「コミュニケーションがとれた」などのご報告をいただきました。また、各病棟の窓口となるOTとのカンファレンスも密となり、個々の目的設定や対応の仕方、情報の共有により集団に対する音楽療法ではありますが、その中でも個別の対応ができていると考えます。

ご家族の皆さんの参加も徐々に増え、「歌っていました」「涙を流していました」などの患者様の変化を嬉しそうに話してくださり、ご家族だけでなく、周囲の方に手を差し伸べてくださったり直接の生活歴などの情報提供も多くなってきています。

私事ですが、認定音楽療法士としての認定審査に合格しました。ほうゆう病院でご指導、ご協力をいただきまして感謝いたします。現在、日本音楽療法学会の認定音楽療法士は、全国で1254名（H18年度）、超高齢化社会に向かう中、啓蒙・普及活動を進めようとしています。私自身、さらにより良い音楽クラブを目指して活動していきたいと考えております。どうぞ、スタッフの皆様も今まで以上に楽しみながらご参加いただきたいと思います。



NSTってなあに？（湘南泉病院の取り組み）

みなさんは最近病院や施設で、『栄養』の文字をよく見かけるようになったと思いませんか？実は、平成17年度介護報酬改定で『栄養ケア・マネジメント』平成18年診療報酬では、『栄養管理実施加算』と医療、介護両面において『栄養』が、評価されるようになりました。しかし医療の現場では、以前から注目されており多くの病院では、『栄養サポートチーム』（Nutrition Support Team NST）が、活動中です。内容は、病院に勤めるいろいろな職種の方が、チームを組み様々な疾患を抱えた患者様の症状に応じて適切な栄養管理を行う活動です。

湘南泉病院も入院中の高齢者の方を中心に低栄養状態の改善目的に様々な取り組みを行ってきました。昨年は、全職員を対象としたNST勉強会の開催し栄養アセスメントや臨床栄養に関する知識、関心をより高める取り組みを行いました。さらに『栄養アセスメント症例検討会（NACC）』を発足させました。メンバーは、医師、看護師、

薬剤師、言語聴覚士、管理栄養士で毎週1回月曜日に活動しております。今年4月からは、病棟カンファレンスを毎週1回行うことが、予定されております。まさに臨床栄養の最前線、患者様のベツトサイドでの栄養管理のことを考え実践していきたいと思ひます。

湘南泉病院 栄養課主任
管理栄養士 市川 奈津子



第6回 市民向け医療・福祉講座 開催しました！！

平成20年2月22日（金）14時から、新中川病院 リハビリテーション室にて開催いたしました。講師は新中川病院 福田千文院長、禁煙外来の加濃正人先生、リハビリの間野和貴科長。参加人数は、57名で大盛況でした。

福田院長は、地域の方が気軽にお茶を飲みに来られてくつろげるような場所を提供したいとお話しされていました。また地域での医療・福祉の連携の大切さを実践に向けての可能性を模索されました。

加濃先生は、ニコチン依存はアルコール依存よりたちが悪く、アルコールは仕事では飲めませんがタバコは仕事でも吸えてしまうし、根性や気合ではなかなか治らないそうです。今日では、アルコール依存症に治療方法があるようにニコチン依存症にも治療方法が確立してきたとの事です。出席者にアンケートへ記入してもらい、集計した所、57名中7名の方が講義を聞いて、禁煙に取り組もうと思われたようです。



市民向け講座の様子

リハビリのお話は、すぐに活用できるストレッチをしたり、変則ジャンケンをし、とても楽しい時間が過ごせました。

今後も皆様のお役に立てるように、身近な医療福祉をテーマに取り組んでいきたいと思ひますので、この講座のご支援宜しくお願ひいたします。

レポーター：松田・長崎